

令和7年度 5月号

めいか

令和7年4月30日
文京区立明化幼稚園

あいさつはコミュニケーションの始まり

副園長 山下 美幸

晴れ渡る青空が広がり、さわやかな風が気持ちよい季節となりました。進級、入園から1か月が経とうとし、子どもたちも少しずつ新しい生活に慣れてきたところです。

毎朝、交わされる「おはよう」のあいさつは、コミュニケーションの始まりの大切な一歩です。登園時の姿から「おはよう」の言葉の中に、「今日も一日楽しく遊ぼう!」という気持ちやパワーがあるように見受けられます。違う学年の友達でも、「おはよう」の言葉を交わすだけで、親近感が生まれ、手をつないで門から玄関まで歩いていく姿につながっているように感じています。

コミュニケーションには、「言語的コミュニケーション」と、表情や身振り、声のトーンなどの「非言語的コミュニケーション」があります。乳幼児期は、非言語コミュニケーションが日常の中にあふれています。楽しい時には笑顔がこぼれ、悲しい時には涙が見られるように、子どもたちは体全体で気持ちを伝えています。幼稚園という小さな社会の中で、子どもたちは、様々な年齢の友達や先生との関わりを通して、コミュニケーションの基礎を築いていきます。

年少組や年中組は、学級にいる先生の存在がモデルとなり、言語的なコミュニケーションを習得していきます。遊びの中で、先生や友達と気持ちを通わせることを通して、人と関わるために必要な言葉を知り、まねることから学んでいきます。年長組は、言語的なコミュニケーションを取りながら遊びや活動を進めていくことが多くなります。グループの友達と一緒に大きなこいのぼりを作る活動では、友達と体の色やうろこの形などを相談しながら作っていききました。言葉で思いを伝えることは、時として、互いに思いがぶつかり、混とんとしてしまうこともあります。そういった時こそ、相手の思いを知ったり、部分的に受け入れたりしながら進めていく楽しさや協同性を学ぶ大切な経験ができるチャンスです。

子どもたちのモデルとなる教職員同士も声を掛け合い、コミュニケーションを図ることが円滑な教育活動においても大切です。ご家庭や地域の皆様との連携も、子どもたちの豊かなコミュニケーション能力を育む上で、欠かすことのできないものです。子どもたちがたくさんの言葉や笑顔を交わす中で、互いを尊重し、心を通わせる喜びを感じられるように、今後も努めてまいります。

年長組が製作した
こいのぼり

